

長野市は、新たなチャレンジを始めています



長野市は、将来のあるべき姿を見据えた長期的な視点で、持続可能な循環型社会の創造に先手を打って取り組むため、中面(P2~3)のような、新たな取組を始めています。

ご挨拶

長野市長の荻原健司(おぎわらけんじ)です。

私は、かつてスキー・ノルディック複合の選手として競技し、長野冬季オリンピックで素晴らしい舞台を作っていただいた皆様に恩返しをしたいとの思いから長野市長となりました。

競技生活で世界を転戦する中で、国宝善光寺などの歴史と文化、豊かな自然環境、そしておいしい食べ物など、当市の魅力は世界に誇れるものであると感じてきました。

私の政策の3本柱は「守る」「育てる」「輝く」です。

「育てる」という面では、子どもたちの夢を育て、産業・文化を育てるため、子育て環境の整備や、文化・スポーツの振興と合わせ、新たな産業振興や企業誘致にも私が自ら先頭に立ち、全力で取り組んでまいります。

当市では、共に未来へ飛躍しようとする事業者の皆様とのご縁を求めています。是非、当市への立地をご検討ください。



令和3年12月 長野市長

荻原健司

長野市の概要

長野市は、人口37万人(通勤圏域人口53万人)の地方都市です。国宝善光寺を擁する観光都市であり、北信越の山岳観光地をつなぐ玄関口として発展しています。

交通アクセス

- ✓ 新幹線で東京から1時間20分。一日41往復。急な出張でもすぐに対応できます。2045年には大阪まで新幹線が直通予定です。
- ✓ 高速道路は、上信越自動車道のICが市内に複数あり、関東、中京、北陸方面につながっています。

人材

- ✓ 信州大学、長野県立大学、国立長野高専など、市内の大学・短大から毎年約1,800人が卒業します。工学、教育、看護、栄養、幼児教育など、様々な学びを修めた学生を新卒人材として輩出しています。

防災

- ✓ 今後30年以内に70%以上の確率で発生するとされている首都直下地震、南海トラフ巨大地震でも、本市に大きな被害は想定されていません。

生活

- ✓ 世界的リゾートである志賀高原、白馬などに1時間程度でアクセス可。地方都市としてスーパー、病院、大学、高校などの生活基盤も充実。社員の皆様にもご満足いただける生活環境を提供できます。





長野市は、新たなチャレンジを始めています

1 『長期戦略2040』

2040年の将来像、ありたい姿を描き、バックキャストिंगの手法で、次世代、未来へとつながる取り組みを実現していきます。

長野市の2040ビジョン

自然の循環と経済の発展を両立させる、長野らしい、世界に誇る「産業」創造で、平均所得を倍増する。

幸せ実感都市
「ながの」
～「オールながの」で未来を創造しよう～

ミッション
変わらぬ使命
存在意義

2040 ビジョン
未来のある時点での
あるべき状態・目標

アクションプラン
個別プロジェクト

～ 個別分野のビジョン ～

農業、林業、観光、ブランディング分野のほか新産業・工業分野において、次のとおり2040年の到達目標を設定しています。

■新産業・IT・工業分野ビジョン(2040到達目標)



発酵、長寿、環境対応型生活スタイルの強みを武器に、世界初の新産業を創出する。

～新産業＋工業分野で、生産額2倍を目指す～

長野市は、新たなチャレンジを始めています



2 スマートシティNAGANO構想

長野市は、「スマートシティNAGANO」として、人工知能(AI)や情報通信技術(ICT)などのデジタル技術等を最大限活用して、地域課題等の解決につなげ、市民の生活の質の向上を図る未来型社会の実現を目指します。

- ✓ 「スマートシティNAGANO ～市民と創る最高のまちづくり～」に全市一丸となって加速して取り組んでいく決意であることを、2021年2月17日に市長が宣言
- ✓ 2021年10月5日、産学官連携の推進組織として「NAGANOスマートシティコミッション (NASC=呼称:ナスク)」を設立

#Smart City NAGANO ～市民と創る最高のまちづくり～

安全・安心・快適な上質の暮らしで幸せを実感できる市民ファーストな未来型社会の実現

目指す方向性

- デジタル技術等を活用した市民満足度の向上
- デジタル変革による生産性向上
- データ利活用や地域課題の解決を通じたデジタルイノベーションの加速

3つの戦略<<3Sシティ戦略>>

- ① ストロング・シティ<<Strong City>>
～脱炭素で防災力の高い強靱なまち～
- ② シームレス・シティ<<Seamless City>>
～誰もが安全・安心・快適に移動できるまち～
- ③ スタイリッシュ・シティ<<Stylish City>>
～上質なライフスタイルを体現できるまち～

長野市は、新たなチャレンジを始めています



3 スタートアップ企業の成長支援

～「信州ITバレー構想」に位置付けられている「善光寺門前イノベーションタウン構想」を実現し、「クリエイティブ・シティ」を目指す～

- ✓ 善光寺門前地区にIT企業や高度人材を集積し、地域課題等の解決を契機として様々なイノベーションを誘発することで、ユニコーンを生む街、Society5.0を体現する街、日本の未来を体験できる街、メガベンチャーが集まる街、起業家精神を育む街を目指します。
- ✓ 起業文化を醸成し、市内をはじめ全国から起業したい若者が集まる「クリエイティブ・シティ」を目指します。



「スタートアップ企業成長支援事業」の展開

- ① 起業や新規事業創出に関心を持つ者の裾野拡大や仲間づくりのためのイベント等の実施
→ 起業文化の醸成や、起業を志す人材等の育成
- ② 起業や新規事業創出につながる地域課題等とスタートアップ企業が出会う場づくり
→ マッチングの機会を創出（人的交流機会の創出）
- ③ 地域等の課題解決を通じた企業内でのイノベーション創出プログラムの実施
→ 地域課題を洗い出し、企業内での課題解決型ビジネスモデル（新規事業）創出
- ④ 起業家の成長を加速するための伴走支援
→ 個別の相談支援 等

長野市は、新たなチャレンジを始めています



4 SDGs未来都市

- ✓ 国(内閣府)が行う「SDGs未来都市」に、令和3年5月、長野市も選定され、同年7月、「長野市SDGs未来都市計画」を策定
- ✓ 「長野市バイオマス産業都市構想」を軸に、スマートシティNAGANOなど関連する施策とも整合させ、長野地域連携中枢都市圏での相乗効果を目指します。

2030年のあるべき姿 (目指す将来像)



環境共生都市「ながの」の実現

自然の循環と経済の発展を両立させる、長野らしい、世界に誇る「産業」を、持続可能な形で、創造又は再構築する。

- 【目標1】 循環型社会の実現 ~バイオマス資源の活用
- 【目標2】 豊かな自然環境の保全と持続可能な活用 ~森林環境の保全、森林管理体制
- 【目標3】 脱炭素社会の構築と地域経済への波及 ~再生可能エネルギー導入
- 【目標4】 連携強化と人づくりの推進 ~担い手育成、子ども達へのSDGs教育
- 【目標5】 SDGs 理解の促進と情報発信 ~環境を理念とした1998長野五輪の遺産をつなぐ

長野市の企業誘致

ICT産業の集積

- ✓ 本市では、市民生活や産業のDXを進展するため、ICT産業の集積に力を入れています。
- ✓ 情報通信業の従事者数が、全国62ヶ所の中核市(人口20~50万人程度の市)の中で5番目に多く(約6,000人)、中核市平均の約2.4倍となっています。
- ✓ 長野駅から徒歩10分圏内にオフィスビル多数あり、様々な広さ・条件のオフィスをご提案できます。賃料も坪10,000円前後と、東京と比較して1/2~1/3程度の水準です。
- ✓ 利便性の高い長野駅前のオフィスはもちろん、様々なアクティビティを楽しめる高原でのワーケーションなどもご案内できます。



情報通信業の従業者数

1 金沢市	8,599人
2 那覇市	7,232人
3 富山市	6,557人
4 松山市	6,194人
5 長野市	5,983人

資料)H28経済センサス活動調査

主な助成制度

県の家賃助成制度と併用で
家賃が3年間ほぼ0円に

- ✓ オフィス家賃の50%を3年間助成(上限500万円/年)
- ✓ 長野市民の常用雇用者を新規採用 1人あたり10万円の助成(上限5,000万円)
長野市内に事業所を新設する場合、移住される社員の方も対象になります

工場立地の推進

- ✓ 本市は、高速道路で関東・中京・北陸に繋がる、交通の結節点に位置しています。
- ✓ 市内には信州大学工学部、国立長野高専があり、大学等の技術や知見を活用した共同研究を産学連携で実施できる環境が整っています。
- ✓ 本市への電気は、太平洋側、日本海側の2系統から供給されており、災害に対する強靱性を確保しています。

主な助成制度

- ✓ 用地取得費の30%の額を助成(上限3億円)
※産業団地の用地を県・市から購入した場合
※民間の工業用地を取得した場合の用地取得費に対する支援制度もご用意しております(補助率20% 上限6,000万円)
- ✓ 3年分の固定資産税相当額を助成(3年目は80%)
※土地・建物・償却資産(機械及び装置に係るもの)が対象
- ✓ 敷地の緑化工事費の20%の額を助成(上限5,000万円)
※敷地全体の10%以上の面積の緑化工事を行う場合